



# 園だより 7月号

2019年6月27日  
中野区立ひがしなかの幼稚園  
園長 若槻 容子  
<http://nk-higasinakano-k.a.la9.jp/>

## 『友達と関わる中で経験していること』

園長 若槻 容子

子どもたちが夢中になって覗き込んでいた「なかよし池」のオタマジャクシも小さなカエルとなって旅立ち、替わりに園庭で日に日に存在感を増しているのが夏野菜です。太陽の光を吸収して伸びていく様は、子どもたちの姿と重なります。

幼稚園は、友達と関わって生活を展開していく場です。友達と一緒に様々なことをするからこそ、時にはそれぞれの思いがぶつかって喧嘩になる場面もあります。ある日のこと、4歳児のAちゃんとBちゃんは一つの人形を取り合っていました。すぐ近くに同じ人形があるにも関わらずAちゃんは「Bちゃんの（遊んでいる）人形がほしい」と譲りません。教師はしばらく二人を見守っていましたが、つかみ合いの喧嘩になりそうだったので仲裁に入り、大泣きしているAちゃんの手をとってその場を離れました。教師と手をつなぎながらも「Bちゃんの人形がほしい」と泣きながら訴えていたAちゃんでしたが、段々と落ち着いてきたので保育室に戻ると、同じ場にBちゃんはいません。すでに園庭に遊びに行っていました。Aちゃんは「Bちゃんいない…」とつぶやき、あれほど欲しがっていた人形を手にはありませんでした。この日は、二人は思いを調整してうまく遊ぶことはできませんでしたが、後味の悪さと共に、次につながる経験をしたと思います。

自分の思いを整理すること、その思いを言葉で相手に伝えること、相手の思いに気付くこと、一緒に遊ぶにはどうしたらいいのか考えること、互いに知恵を出し合うことなど、喧嘩を通して多くのことを学んでいきます。「人と心地よく生活すること」の延長線上に「時には思いがぶつかって喧嘩をすること」があります。幼児は周囲の大人に見守られ、困ったときには助けてもらえるという安心感の中で、自分で対処していこうとする力が育まれます。ここで大事なことは、子どもたちが自分で解決していこうとする力を大人が信じること。必要以上の手助けは子どもの育ちを阻害します。友達と関わりながら自分たちで進めていく生活は、「心の根っこ」を育てていきます。ご家庭でもお子さんが気になることをつぶやいたら、「友達と仲良く遊ぼうね」と先回りするのではなく、まずは「そのときどんな気持ちだった?」「友達の気持ちは?」「どうしたらよかったのかな」と、自分から言葉で伝えて相手と関わって解決していこうとする姿につながるような会話をお願いします。

さて、6月の最終週は、3・4歳児の期待を受けて、5歳児が年長組としての責任と誇りを感じながら作る「カレーパーティー」がありました。この取り組みは、中野東中学校の畑をお借りして収穫したジャガイモを使い、地域のスーパーマーケットの方のご厚意で5歳児が食材を買いに行き、区の方をお願いして焚火の木材を調達し、そして、当日は保護者の方のお手伝いをいただくなど、多くの方の支えがあって実現します。まさに、今年度のスローガンである「子どもを真ん中にしてみんなでつながって幼稚園の豊かな生活をつくらう」です。一学期の締めくくりに、人と人とが繋がって豊かな体験となりました。

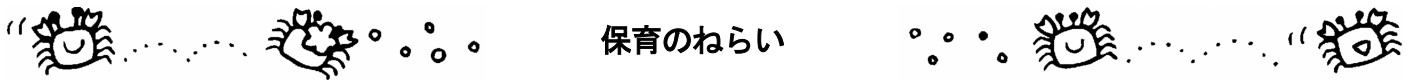
## きせつのはなし「土用」

「土用」と言えば、「土用の丑の日」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。「土用」とは、立春、立夏、立秋、立冬の前のおよそ18日間をさし、どれもが体調を崩しやすい季節の変わり目であることから、医学の発達していない昔の人は、普段以上に注意して過ごしてきたようです。特に、夏の土用にあたる「土用の丑の日」は、二十四節気の「大暑」に重なり、非常に暑い時期です。厳しい暑さを乗り切るために、体にいいものを食べる「食い養生」の風習がうまれました。そして、土用の丑の日にちなみ、「う」のつくものを食べて精をつけ、無病息災を祈願します。

【うなぎ】タンパク質、ビタミンがたっぷり！ 【瓜】体の熱をとり、利尿作用でバランスを整えます。

【梅干し】クエン酸が疲れをとり、食欲を増進します。 【うどん】暑い中でも色が進みます。

おいしく食べて、暑い夏を乗り切りましょう！



## 保育のねらい

- <3歳児>** ○自分の好きな遊びや気に入ったことを元付けし繰り返し楽しむ。  
○水に触れる心地よさを感じるとともに、遊びに必要な身支度を教師と一緒にしようとする。

音楽に合わせてあおむしのペープサートを動かしたり、ビニル袋の魚を作り世話をしたりするなど、自分のものがある安心感を感じながら自分なりに動いて遊ぶ姿が見られます。その中で、同じ場にいる友達と同じ遊具を使おうとしたり、動きを真似たりするなど、関心が広がってきています。一人ひとりが面白いと感じたことに教師も共感しながら、それぞれが自分のペースで楽しめるようにしていきます。

また、天気の良い日には、水遊びをしたり砂場で水を用いて遊んだり、水に触れる心地よさや解放感を味わえるようにしていきます。着替える機会も多くなりますが、教師に見守られたり手伝ってもらったりしながら、自分でやってみようという気持ちをもてるように援助していきたいと思います。



- <4歳児>** ○自分から見付けた遊びを繰り返したり、新しい遊びに興味をもって関わったりして遊ぶことを楽しむ。  
○いろいろな水遊びを通して、解放感を味わいながら水に親しむ。  
○栽培物の世話や収穫をしながら関心をもち、生長を楽しみにする。

「忍者の修業をしよう」と忍者ベルトを身に付けて手裏剣を投げたり、「しっぽとりをしたい」とルールをもとに遊んだりして、気の合う友達と同じ場で動くことを楽しむ姿が見られます。一緒にいる友達に関心を向けながらも、自分のやりたいことを十分に楽しめるように援助していきます。また、七夕の飾り作りや絵の具を使った描画など、新しい遊びにも興味をもてるようにしていきます。

水遊びでは、着替えや体操などの手順を覚えて自分なりに行き、参加する姿が見られます。プールでの全身を使った水遊びの他にも、砂場や色水作りなど、様々な活動を通して水に親しめるようにしていきたいと思います。

そして、さくら組のみんなまで育てている野菜が大きくなっていることに気付き、収穫や会食に期待をもっています。育てて良かった、食べられてうれしい、と子どもたちが思えるようにしていきます。



- <5歳児>** ○自分のやりたいことを実現させるために、試したり、工夫したりすることを楽しむ。  
○水の心地よさや浮かぶ楽しさを感じながら、自分のめあてをもって取り組む。

「人形の洋服を作るんだ」と布やモールを使って工夫して作ったり、「プラネタリウムを作ろう」とロケットや惑星を描いてOHPで投影したりするなど、自分の考えを実現していこうとする姿が見られます。七夕に向けてのいろいろな製作活動や色水・シャボン玉遊びなどの遊びの中で、自分なりのめあてをもって試したり工夫したりすることを楽しめるように援助していきます。また、自分の気付きを友達に伝えたり、友達の刺激を受けてやってみたりする楽しさを感じていけるようにします。

プール遊びでは、水に触れる感触や水の中で動く感覚を楽しみながら、友達の刺激を受けて、自分なりのめあてに向けて挑戦できるようにしていきます。